

社会事業史学会第4次歴史教育委員会による

「社会福祉士を養成する大学における社会福祉の歴史教育についての調査」の報告

金城学院大学 柴田謙治(391)

キーワード：歴史教育 社会福祉士養成 調査報告

1.調査の背景と目的

社会福祉士などの社会福祉専門職の養成においては社会福祉の歴史教育は不可欠と思われるが、社会福祉士及び介護福祉士法の成立時、そしてその後の養成カリキュラムの改正の際にも、社会福祉の歴史教育にかかわる科目は設置されなかった。社会福祉士を養成する大学のなかには、社会福祉士の受験科目とは別個に社会福祉の歴史教育にかかわる科目を設置したところもみられたが、社会福祉士の養成カリキュラムの改正により授業科目や授業時間数が増え、新たな国家試験科目への対応が求められるなかで、社会福祉の歴史教育にかかわる科目を廃止するところも散見される。

社会事業史学会第4次歴史教育委員会(委員長・野口友紀子・長野大学)は、第3次委員会までの検討成果をふまえつつ、新たな社会福祉士の養成カリキュラムと国家試験科目の施行に伴う、社会福祉士を養成する大学における社会福祉の歴史教育の現状を把握し、変化と課題を明らかにするために、「社会福祉士を養成する大学における社会福祉の歴史教育についての調査」を実施した。この調査の目的は、上述のような状況下における社会福祉の歴史教育の現状と変化、課題を明らかにし、社会事業史学会が社会福祉専門職の養成における歴史教育の重要性を関係者にアピールできるような素地を作ることである。

2.調査の対象と方法

本調査では、日本社会福祉士養成校協会に加盟する四年制大学276校(2010年12月18日時点での同協会のホームページによる)のうち、ホームページ上で社会福祉の歴史教育にかかわる科目が設置されていることを確認できた大学(91校)の当該科目担当者を対象に、悉皆で質問紙を郵送し、自計式によるデータを2011年6月3日までに返送していただいた。その結果38校の担当者から返送があり、回収率は41.8%であった。

なお調査項目は、以下のとおりである。

問 1 基本的な事項

- 1.大学・学部名
- 2.担当している社会福祉の歴史教育の科目名称
- 3.配当学年
- 4.必修 / 選択ないしは選択必修の種別
- 5.開講期間
- 6.単位数
- 7.開講形態
- 8.担当者としての雇用形態
- 9.2010年度の履修者数

問 2 当該科目が開設された時期

問 3 社会福祉士の養成と社会福祉の歴史の教育とのかかわりと意義について思うこと
(自由回答)

問 4 当該科目を担当していて、課題や難しさを感じることとその理由、内容

問 5 2009年度からの新たな社会福祉士養成カリキュラムの施行や社会福祉士国家試験の科目数の増加が当該科目に与えた、変化や影響(自由回答)

問 6 社会事業史学会への所属の有無

3.倫理的配慮

調査票には、調査結果を上記委員会の報告書に掲載し、それ以外にも日本社会福祉学会等で報告することがあるが、匿名性を保てるようにデータを統計的に処理することを明記した。またデータの集計にとどまらず、「他大学の参考になりそうな社会福祉の歴史教育の紹介」をおこなうために、回答者にシラバスなどの授業内容を示す資料の添付を依頼し、添付したくださった方にはその資料の公表についての可否を確認した。

4.調査の結果

返送していただいたデータの集計と分析結果については、当日資料を配布して、報告したい。